

こたいら ちよつとむかし

あけましておめでとつございます。
今年、小平の昔ばなしを、タマおばあさんに語ってもらつう形で、紹介しま



一、矢の根石



昔ね、わたしがまだ小さかったころは、小平はほとんどが畑と雑木林だったんだよ。
この辺りの土はさらさらで、石が混じっていることなんてほとんどないんだけど、たまに三角の小さな石が落ちていたの。

それが、大人の親指の先ぐらいの本当に小さくて、うすべったたい石なの。
おじいさんは、「これは矢の根石だよ。小平は古戦場だったか

ら、そういうものが落ちていたんだ。鎌の刃が欠けたら大変だ」と言っていて、畑の隅にすぐ捨ててしまったんだけど、矢の根石は、矢の先につける石(矢じり)のことなんだよ。
何百年も前、新田義貞

とのお侍が鎌倉幕府を攻めるときに、この辺りを通って行ったそうだよ。新田義貞は途中でいろいろな戦いをして、国分寺にあった武蔵国分寺も、焼き打ちしてしまっ

たんだって。矢の根石はその時のものだよって、言われたから、わたしは何十年も信じていたんだけど、それが間違いだってわかって驚いたんだよ。
鈴木遺跡資料館へ行ったら、矢の根石と同じものがあつたね。そこで教えてもらったんだけど、石の矢じりを使っていたのは石器時代で、新田義貞のころはもう金属の矢じりだったそうだよ。

だから矢の根石は4千年も5千年も前のものなんだってね。石器時代の人がこの辺りで狩りをして、放つた弓矢の先なんだって。
資料館には大昔の石器もあつて、獲物の皮をほ

いだり、切ったりするのに使ったんだってね。
そういえば、畑の中からも出てきたことがあつたよ。その時は、ただの石ころだと思っただけど石器だったのかも。小平では大

根をたくさん作つていてね。石が土の中にあると、大根が大きくなるときに当たって、二またや三またになったりするんだよ。そうなるって売れないし、硬くなって味も悪

いんだよ。
それでそんな石はみんな、畑の隅に捨ててしまったの。
石を捨てた辺りには家がたたくさん建つてしまつたから、もうとつくに無

残念なことをしたよ。

二、亥の子のぼたもち



大根といえよ、こんな話もあるんだよ。
昔、この辺りには亥の子さまという大きなイノシシがいたんだって。亥の子さまには9匹の子どもがいて、やんちゃで暴れん坊だったの。

畑にやってきては、作物の芽を踏みつぶしたり、大根や芋をかじってしまったり、それはそれは大変だったんだよ。
この辺りはみんな、農家だったからね。作物を荒らされて、困ってしまった、どうしようもない

相談したんだって。いつもこんなに畑を荒らされたら、仕事をやる気にもなれない、どうしたらいいものかって。それで、ぼたもちをこ

らせて、亥の子さまに畑で悪さをしないように、お願いに行くことにしたんだって。
どうか、このぼたもちを食べ、大事な畑を荒らさないでくださいって。亥の子さまに願いは通じてね、それからは作物が荒らされることはな

くなったの。
それで、毎年11月9日になると、ぼたもちを作るようになったんだよ。
亥の子さまの子どもは9匹だから、9つの大きなぼたもちを作って、重箱に詰めるの。それを畑に持っていくんだよ。

うちでは、そのぼたもちを畑に置いてきたんだけど、そのまま持つて帰る家もあるんだよ。
知り合いの家では、ぼたもちを大根畑に持って行って、畑の周りをぐるぐる回ると、大根がぼたもちを見たくて、ぐいっと首を伸ばすんだって。大根がぐんと大きくなって土から持ち上がるんで、抜き

やすくなるってことだね。
ほかに、ぼたもちをみんな食べている音を聞かせるって、それを食べたくて、首を伸ばすっていう家もあるよ。
そのときにね、「米かえろ、粟かえろ。」って答えると、大根が首を伸ばすんだって。
だけど、粟で作ったぼたもちだと、大根が首を引っ込めちゃうんだって。
それで、この日を「大根の年取り」と言っただよ。

三、お雑煮とごはん



小平のお雑煮は、しょは四角で、焼いたり、焼うゆ味なんだよ。おもち



かなかったり。それから
自分ちの畑の大根やにんじん、里芋、小松菜なんかを入れるんだよ。
おもちも陸稲のもちだったの。小平は水が不自由で、田んぼがほとんどなくてね。陸稲っていつて畑で育つ稲を植えていたんだよ。陸稲の米は、田んぼの米に比べて、ばさばさして粘りけが少ないの。だからもちをついても、あんまり伸びなくて、今のようには、おいしくなかったね。

それでも、おちはごちそうだったんだよ。もち米は、ごはんを炊くうち米より、とれる量が

少ないから、それだけ食べたかったんだね。だからお正月にしか食べられないお雑煮は、本当にごちそうだったの。
ごちそうといえよ、白いごはんもごちそうだったの。白いごはんは月に1・2回しか食べられなくて、ふだんはお米に大麦を混ぜて食べていたんだよ。それも大麦の方が多いくらいだから、ぼろぼろのごはんだったよ。
お正月になると、朝はお雑煮で、昼は真っ白なごはんを食べられるんだから、とても楽しかったの。

タマおばあさんのお話、いかがでしたか?
ご感想を小平民話の会(高津042(343)6077)または秘書広報課まで、どうぞお寄せください。